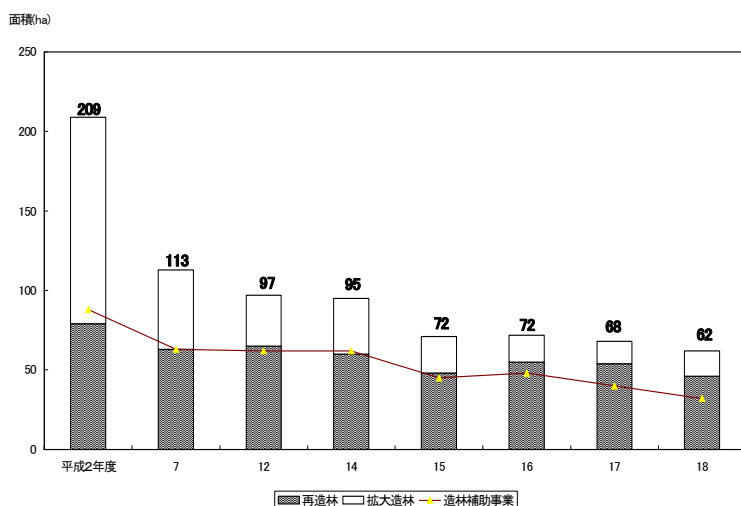


2. 森林の整備

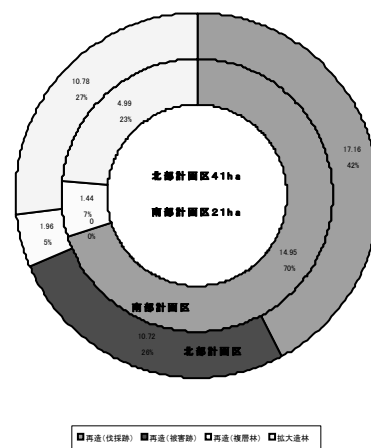
(1) 人工造林

—対前年6 haの減少—

造林種別人工造林面積



地域別人工造林面積



本県の人工造林面積は近年減少傾向で推移しており平成18年度は前年度に比べ6 ha減少して62haとなった。昭和60年度の410haと比べ1/6以下、平成2年度の209haの1/3以下となっている。この内、補助造林は32haであり、前年度より8 ha減少した。その結果人工造林面積に占める割合は52%となった。

造林種別内訳は、再造林が前年度より8 ha減少して46ha、拡大造林は前年度より2 ha増加して16haとなっている。

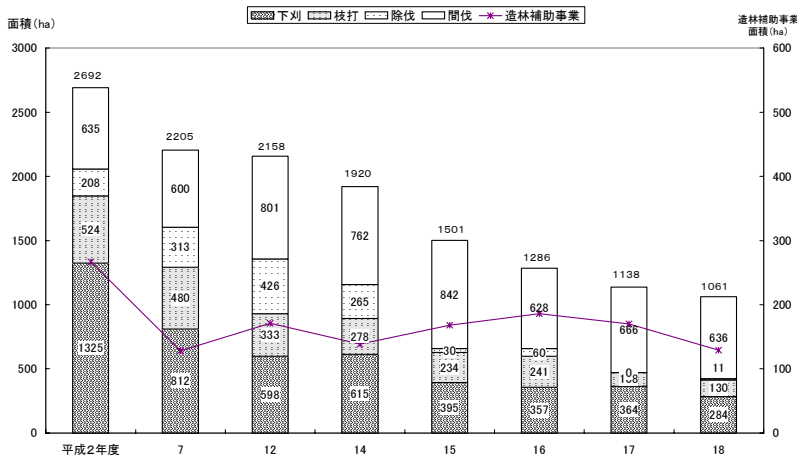
18年度実績を地域森林計画区別に見ると、北部計画区が前年度より5 ha減少して41haとなり、全体の66%を占めた。その内訳は、前年度と同様スギ非赤枯性溝腐病等の被害跡地造林を中心に再造林が30haと殆どを占めている。また、南部計画区は前年より1ha減少して21haとなった。北部計画区と同様に再造林が16ha、拡大造林が5 haで再造林が大半を占めた。

また、造林樹種別の面積構成はスギが50% (31ha)、ヒノキ24% (15ha)、マツ10% (6 ha)、広葉樹16% (10ha) となり、前年度に比べスギが8 ha増加し、ヒノキが10ha減少した。

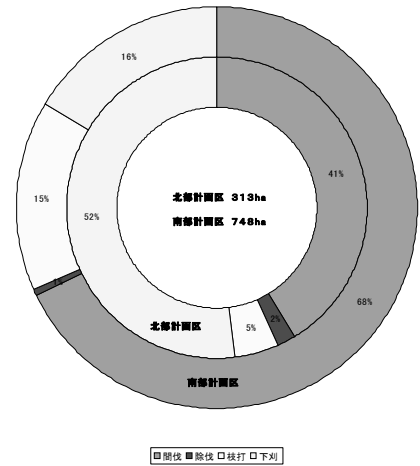
(2) 間伐・保育

—間伐・保育実施面積が減少—

間伐・保育面積の推移

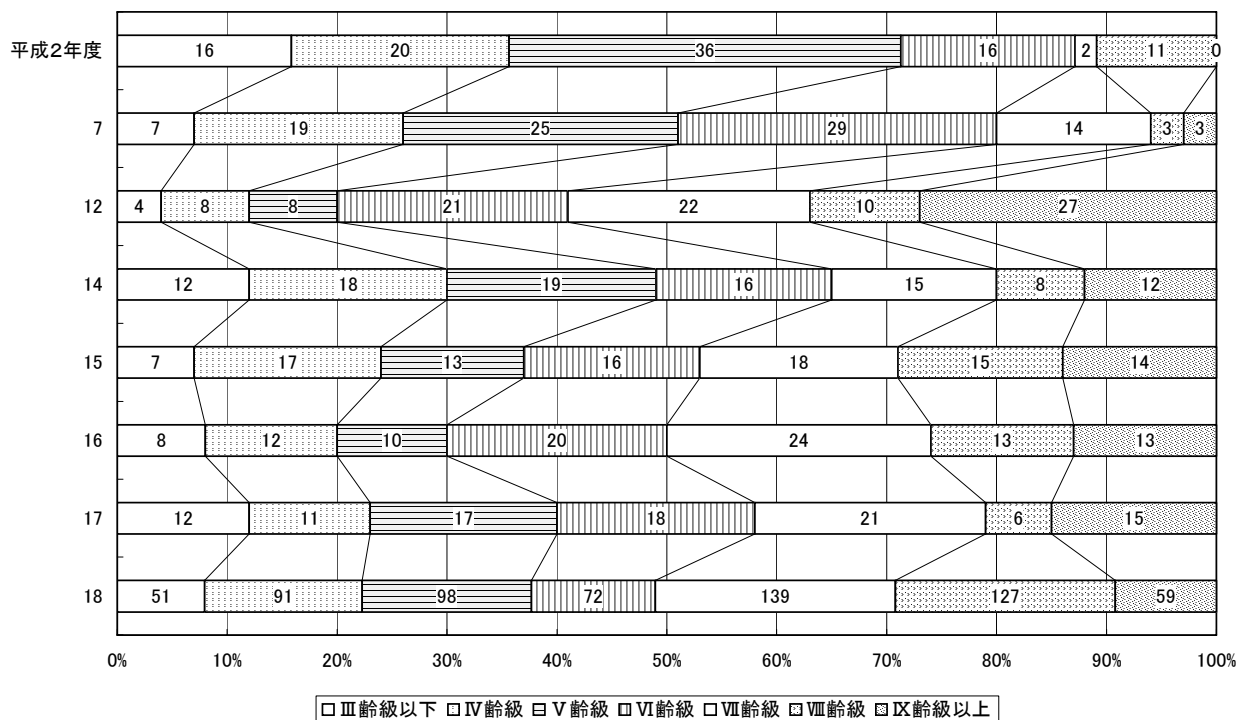


地域別間伐・保育面積



間伐の齢級構成の推移

単位: %



本県の間伐及び保育の実施面積は、近年、全体としては2,100ha～2,200ha程度で推移していたが、平成14年度以降減少が続き、18年度は1,061haと5年連続で2,000haを下回っている。種類別には、下刈りが減少傾向、間伐が増加傾向にあったが、18年度の間伐は対前年比95%で5%減となった。

18年度の地域別傾向としては、間伐・保育面積全体では南部が全体の71%となっており、南部に集中する傾向にある。その種類別内訳では、北部で下刈、枝打ちが57%を占めるのに対し、南部では除・間伐が68%を占めている。

間伐実施面積を齢級別にみると、平成14年度にはⅢ～Ⅴ齢級が49%であったが、18年度はⅧ齢級が増加し、Ⅶ齢級以上が51%となっている。